

# 土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 一般県道 中領家庄原線 測量設計地質調査業務委託(道路改良・単独)

事業名または工事名 一般県道 中領家庄原線 道路改良事業

調査目的及び調査対象 道路 掘削・掘削のり面

ボーリング名	Boring No. 1	調査位置	広島県庄原市総領町五箇	北緯	34° 48' 22.27"
発注機関	広島県北部建設事務所庄原支所	調査期間	2023年 10月 2日 ~ 2023年 10月 18日	東経	133° 06' 28.48"
調査業者名		主任技師		現場代理人	
孔口標高	T.P. 358.73m	角	180° 上下 90° 0°	方位	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°
総削孔長	6.00m	地盤勾配	鉛直 90° 40°	使用機種	東邦D0-D
		試験機	東邦D0-D	エンジン	ヤンマー-NFD12
		ポンプ	東邦BG-3C型		

標尺	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記号	標準貫入試験						試験採取	室内位置試験	削孔月日			
											深度 (m)	N値	100mmごとの打撃回数	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量				深さ	採取	方法
				礫混じり砂	礫質土	黒褐 茶褐 黒 茶灰	rd3		完新世	崖錐堆積物 φ5mm~φ30mmの角礫が点在する。 φmax40mm。礫は比較的硬質である。 GL-0.50m付近より粘性分を少量含む。 GL-1.00m付近まで木根が確認される。 GL-1.40m以降では礫分及び粘性土分が増加する。	10/16 2.42	16	1.15	5	6	5	16	300	1.15	P-1	⊖	10/11
	356.93	1.80		安山岩	砂質土	淡緑灰 茶	rd4		中生代	安山岩の強風化帯 風化が著しく指圧にて容易に砕ける。 小礫状コアを主体とするがコア自体は比較的硬質である。 GL-2.60m~GL-2.70m間は破砕され礫混じり砂状コアとなる。 岩質区分は土砂。	10/16 2.42	35	2.15	9	13	13	35	300	2.15	P-2	⊖	10/12
	356.03	2.70		安山岩	軟岩	淡緑 灰 茶	rd5		中生代	安山岩の風化帯 高角度亀裂(70~90°)が卓越し、亀裂面より容易にコアが剥離する。 コアは岩片状コアを主体とし、硬質なものが多し。 亀裂面は茶~褐色に変色している。 GL-3.50m~GL-3.85m間、亀裂が密に発達しコアは礫状呈する。 GL-4.20m~GL-4.40m間、20mm程度の火山灰質土を挟む。 GL-5.35m~GL-5.75m間、亀裂はあるものの密着しており硬質なコアを呈する。 GL-5.85m付近、破砕され軟質なコアを挟む。 岩質区分は軟岩。	10/17 3.45	88	3.10	25	25	50	170	170	3.10	P-3	⊖	10/13
				安山岩	軟岩	淡緑 灰 茶	rd5		中生代	安山岩の風化帯 高角度亀裂(70~90°)が卓越し、亀裂面より容易にコアが剥離する。 コアは岩片状コアを主体とし、硬質なものが多し。 亀裂面は茶~褐色に変色している。 GL-3.50m~GL-3.85m間、亀裂が密に発達しコアは礫状呈する。 GL-4.20m~GL-4.40m間、20mm程度の火山灰質土を挟む。 GL-5.35m~GL-5.75m間、亀裂はあるものの密着しており硬質なコアを呈する。 GL-5.85m付近、破砕され軟質なコアを挟む。 岩質区分は軟岩。	10/17 3.45	125	4.10	40	10	50	120	120	4.10	P-4	⊖	10/13
				安山岩	軟岩	淡緑 灰 茶	rd5		中生代	安山岩の風化帯 高角度亀裂(70~90°)が卓越し、亀裂面より容易にコアが剥離する。 コアは岩片状コアを主体とし、硬質なものが多し。 亀裂面は茶~褐色に変色している。 GL-3.50m~GL-3.85m間、亀裂が密に発達しコアは礫状呈する。 GL-4.20m~GL-4.40m間、20mm程度の火山灰質土を挟む。 GL-5.35m~GL-5.75m間、亀裂はあるものの密着しており硬質なコアを呈する。 GL-5.85m付近、破砕され軟質なコアを挟む。 岩質区分は軟岩。	10/17 3.45	500	5.00	30	30	50	30	30	5.00	P-5	⊖	10/16
	352.73	6.00									10/17 3.45	500	6.00	30	30	30	30	6.00	P-6	⊖	10/16	